

## 令和6年度 大野北地区まちづくりを考える懇談会結果報告

- 1 日 時 令和7年1月14日（火）午後6時から午後7時36分まで
- 2 場 所 大野北公民館 大会議室
- 3 市側出席者 本村市長、大川副市長、萱野中央区長、片岡市長公室長、  
伊藤こども・若者未来局長、高林環境経済局長、河崎教育局長、  
兼杉中央区副区長、櫻井こども・若者支援課長、松本生涯学習課長、  
榎本市民局長
- 4 出席委員等 16人
- 5 傍聴者 5人
- 6 懇談会の要旨

テ ー マ	鹿沼公園に建設される複合施設について
概要	<p>大野北地区まちづくり会議では「次世代に引き継ぐ淵野辺駅南口周辺のまちづくり市民検討会」での検討経過について、市の関係部署からの説明を受け、市に対して、意見や要望を行ってきた。その意見等も踏まえ、令和4年度末に「次世代に引き継ぐ淵野辺駅南口周辺のまちづくりビジョン～鹿沼公園・公共施設再整備に向けて～」(以下「ビジョン」という。)が策定され新たなステージとしてビジョンに基づき複合施設の建設位置やコンセプト及びスケジュールなど、更に具体的な内容を定めるプランの策定に向けて現在、検討していると承知している。</p> <p>大野北地区まちづくり会議やまちづくりを考える懇談会においては、これまで多くの検討を行ってきており、地域の意見や要望がどのような形で新たなプランに反映されるのかを今後も注視していきたいと考えている。</p> <p>今年度は特に、鹿沼公園に設置される複合施設について、市における検討の進捗状況を伺うとともに、各所管部署から具体的なコンセプト等の説明を伺い、各施設が複合化されることのメリットを最大限生かした施設となるよう懇談したい。</p>
地区の取組 状況等	<p>平成30年度「大野北地区まちづくり会議報告書」において公共施設の複合化を提言した。</p> <p>令和3年度第7回まちづくり会議において、「次世代に引き継ぐ淵野辺駅南口周辺のまちづくり市民検討会」での進捗状況の報告を受け、世代間交流の実現に向けた意見や、基本計画の策定にあたっては、まちづくり会議の要望を反映して欲しい旨を伝えた。</p> <p>令和4年度第2回まちづくり会議において、再度「次世代に引き継ぐ淵野辺駅南口周辺のまちづくり市民検討会」のその後の進捗状況の報告を受け、前回同様に意見、要望を伝えた。</p> <p>令和5年度第2回まちづくり会議において、現在の淵野辺駅南口周辺のまちづくりの進捗状況について、ビジョンを基に報告を受けたため、今後どのような形で地域の意見を反映していくのか意見、要望を伝えた。</p> <p>令和6年度第2回まちづくり会議において、現在の市立図書館の機能を中央図書館機能基本方針に基づき充実させる旨の説明を受け、複合化される他の施設の</p>

	<p>充実についても意見、要望を伝えた。</p>
<p>市の取組 状況等</p>	<p>淵野辺駅南口周辺のまちづくりについては、次世代に引き継がれる持続可能な地区としての発展を見据え、地域住民や地域団体の代表者で構成される大野北地区まちづくり会議や大野北地区まちづくりを考える懇談会の場で、多くのご意見をいただいたほか、市民検討会や有識者協議会において、様々な議論を積み重ねてきた。こうした経過を踏まえ、平成29年12月に公表した「淵野辺駅南口周辺公共施設再整備・地域活性化基本計画（案）」の内容を見直し、次世代に引き継ぐ淵野辺駅南口周辺のまちづくりを進めるための新たなビジョンとして、令和5年3月にビジョンを策定した。</p> <p>ビジョン策定後は、第1ステップである公共施設の再整備を中心としたまちづくりに当たり、複合施設の整備位置・規模、公園リニューアルについて、民間事業者の意見等を踏まえ、事業手法、施設の運営等の検討を進めるとともに、第2ステップである跡地活用による駅前自転車駐車場の再整備などの課題解決に向けたまちづくり等に当たり、複合施設整備後の跡地活用等の検討を進めるため、民間事業者等にアンケート・ヒアリング調査を実施し、意見把握を行った。また、まちづくり会議や各施設の運営協議会等へ伺うほか、小中学校の出前授業、ワークショップ、子ども向けオープンハウス等を開催し、ビジョンの内容を説明するとともに、様々なアイデアをいただいた。</p> <p>昨年10月からは、事業の必要性、妥当性等について自ら検証し、市民や専門家等のご意見を聴いた上で、市として事業の対応方針を決定するため、大規模事業評価を実施している。大規模事業評価自己評価調書（以下「調書」という。）に対する意見募集では、17名の市民から40件の意見をいただいたほか、先日1月10日には、大規模事業評価委員会から答申が提出されたところである。</p> <p>複合施設の検討状況について、複合施設のコンセプトは、ビジョンにおいて、「目的がある人もない人も、誰もが気軽に利用できる公園のような施設」と定めている。このコンセプトの実現を目指し、生涯学習課が中心となり、複合化の対象となっている施設の担当職員等と、ほぼ毎月開催している定例会議や、様々な打ち合わせを実施し、検討を進めている。</p> <p>複合施設の設置場所については、現在の鹿沼公園の駐車場から公園管理事務所・テニスコート付近を複合施設ゾーンと設定し、そのゾーン内における施設の位置や形状は、民間事業者の提案を募るものと考えている。</p> <p>施設は、障害の有無、年齢、性別、国籍等にかかわらず、誰もが安全・安心に利用できるよう、ユニバーサルデザインの考え方を踏まえるとともに、周辺の住環境や景観に配慮し、高さを最大3階までの低層に抑えるものと考えている。また、脱炭素社会を見据え、エネルギー消費量を抑えた施設にすることや、太陽光発電設備の設置も検討している。</p> <p>延床面積は、複合化のメリットである廊下や階段など共用部の集約により、現状より縮減した約7,500㎡程度とするが、貸室の利用実態を踏まえ、現在のニーズに応じた仕様、部屋数への再編や、予約なしで自由に使えるフリースペース、子どもたちが遊べるようなスペース、中央図書館機能確立のために必要な書庫の拡充などを考えている。</p> <p>施設内は、誰もが気兼ねなく利用できるよう、使い方に応じて、フリースペー</p>

	<p>スなどを中心とした「にぎわい空間」、貸室を中心とした「活動空間」、静かに読書や勉強などをする「静かな空間」にゾーニングを行う。また、複合施設全体を図書館と見立て、図書館エリア以外にも本を配架し、気軽に好きな場所で読書を楽しめるようにする。</p> <p>運営については、民間事業者のノウハウにより、効率的・効果的な管理・運営及びサービス提供が可能な業務は、民間事業者に委ねるが、市が実施すべきものは、引き続き直営とする。また、現在施設ごとに異なる休館日や開館時間の統一や、公民館と青少年学習センターの貸室の相互利用など、可能な限り一体的な運営を目指して検討を進めている。</p> <p>本事業は、様々な設置目的を持つ、図書館、公民館、青少年学習センター、児童館、国際交流ラウンジ、まちづくりセンターの6つの機能を集約・複合化することが特徴となっている。こうした特徴を生かし、複合施設の利用者がこれまで興味・関心のなかった分野の本や市民活動に触れることができるような施設づくりによる「新たな学びや活動の誘発」や、各機能間で連携した事業やイベントの開催による「世代間交流や国際交流の機会の創出」など、複合施設の相乗効果を最大限に引き出せるよう、施設の整備や運営に取り組んでいく。</p> <p>現在市内では、民間活力導入可能性調査、大規模事業評価の答申や市民意見を踏まえ、本事業の第1ステップの取組を中心とした基本計画として、「まちづくりプラン」の本年3月策定を目標に検討を進めている。</p> <p>なお、まちづくりプランの内容については、改めて市民説明会やオープンハウス型説明会を実施し、皆様に説明する機会を確保していきたいと考えている。</p> <p style="text-align: right;">(大川副市長)</p>
--	--

懇談内容	
<p>地区の発言</p>	<p>「目的のある人もない人も、誰もが気軽に利用できる公園のような施設」をコンセプトとして、図書館機能を中心に複合施設が建設されると認識しているが、各ゾーンとの調和や、利便性を加味すると最適な建設場所はどこになり、それはいつ決定するのか。また、建設される複合施設のイメージは図案化されているのか。</p> <p>複合施設の建設位置及び形状について、既に発行されているビジョンでの位置は北西案、池北側案、正面案があり、池北側案が優位と認識している。基本となる2, 500㎡×3の面積を、美術的に優れているとされる黄金比、1対約1.6とすると、池の北に接してしまう。絵を描きながらビジョンを見たところ、テニスコート寄りに移動するのがいいと考える。ただ、令和6年10月15日に公表された調書でのゾーニングでは、施設ゾーンは北西案まで広げられており、対応可能ということも理解している。詳細な建設位置は、令和8年度選定予定の業務委託事業者との検討によると思うが、ビジョンには「公園の魅力向上に資する位置」に配置するとある。相模原市としての、より具体的なイメージや考え方を示しいただきたい。</p> <p>また、無機的な基本形状や外観装飾は公園にそぐわないと思うため、できればデザインコンペをやっただけだと嬉しいと思っている。</p> <p>続けて、複合化する諸施設での市民活動の現状維持や活発化について、令和4</p>

	<p>年度のまちづくりを考える懇談会で、コミュニティ室等の市民活動に必要な諸室は可能な限り確保していただきたいという話をしており、そのように検討していくというような発言をいただいた。</p> <p>複合施設の規模は当初から共用部分を集約して7,800㎡から7,500㎡にするとされていたが、その時点で図書館の充実用スペースは考慮されていたのか。複合する6施設の会議室等の諸室の活動状況調査と、調整の考え方及び今後の検討内容を伺いたい。</p> <p>調書の7ページにはバックヤード・共用部分が187㎡減少と書かれているが、このうち共用部分は当初の計画では300㎡程度減少予定だったが、どのくらい減少するのか。貸室は158㎡減少しているが、市民活動の現状維持及び継続は可能か。また、調書15ページには、今後の予測として施設全体の利用者数は約35万人増加すると見込まれている。建設後に部屋を借りられなくなることはないのか。</p>
<p>市の発言</p>	<p>複合施設の整備位置については、ビジョンにおける池北側案を基本としつつ、民間事業者の意見や公園内の適正なゾーニングを勘案し、池北側案を現在の公園事務所やテニスコートまで広げた複合施設ゾーンとして、調書において示したところである。令和7年3月を目途に、まちづくりプランにおいて、設置するゾーンを決定したいと考えている。</p> <p>また、この事業は設計・施工から運営まで、最大限民間活力の活用を検討している。リニューアル後の鹿沼公園及び新たな複合施設の具体的な位置やイメージは、今後事業者から提案を受けていく中で整理し、示していきたい。</p> <p>複合施設の整備地については、複合施設ゾーンとして一定の範囲を設定した中で、事業者から具体的な建物や位置、形状の提案をもって詰めていく予定である。無機質な基本形状とならないようにという心配の声もあったが、住環境や公園の景観の調和を十分配慮し、例えば屋上に緑地や広場空間を設ける等、鹿沼公園と一体となるような調和が図られ、相乗効果が十分に発揮されるような施設の条件づけを市の方で設定した中で、事業者募集等の準備を進めていきたいと考えている。</p> <p>複合施設の規模について、まず図書館の関係になるが、中央図書館機能を確立、充実にしていく。そして貸室の利用実態や先行自治体の事例等を含め、改めて必要な延床面積の精査を行った中で、複合化のメリットである、廊下や階段等の共用部の集約や貸室の整理を行い、今現在約7,500㎡程度と示している。</p> <p>中央図書館機能の充実に向けては、延床面積の精査の過程において、例えば図書館の貸室は現在の利用状況を見直し、複合施設全体の貸室として確保をする一方で、70万冊の図書が収容できる規模の確保や、居心地のよい読書空間を整備していくといった検討を踏まえ、中央図書館としての必要な機能は確保できているものと考えている。</p> <p>面積については、今後事業者から提案を受けて設計等を進める中で、さらに精査していきたいと考えている。調書の中で187㎡減少しているのはバックヤード部分が131㎡、共用部分が56㎡の削減を想定しているが、あくまでも現時点の目安である。貸室を含め、現在の様々な利用形態を踏まえ、防音等がきちんと整備された貸室となるような形での対応も検討している。</p>

	<p>また、貸室の面積については若干減少する見込みで提案しているが、例えば午前、午後、夜間といった利用のコマ数については、現在のコマ数を少々上回る数を確保できていると考えている。利用の見込みは調書に示しているところもあるが、大部分は図書館の来館者が増える前提での利用者の増加を見込んでいる。複合施設になり新しく施設が生まれ変わることで、他の部分の諸室の利用も若干上回ることを見込んだ中で、貸室のコマ数や面積を設定している。貸室の面積が減少したことによって、直ちに市民活動に支障をきたすことはないよう、制度設計をしていきたいと考えている。 (河崎教育局長)</p>
地区の発言	<p>大野北地区は、ふれあい収集の令和7年度モデル地区に立候補したいと思っている。令和6年12月16日の市議会での萩生田議員の質問で、ふれあい収集のモデル事業が3地区で実施されると知った。高齢者のごみ出し支援は地区としてもずっとやっているが、近所との交流の少ない方への対応についてはとても苦勞している。</p>
市の発言	<p>麻溝にある最終処分場が令和19年度中に満杯になってしまうため、次の候補地の検討やごみの減量をしなければいけないことを、市民の方にご理解をいただきながら取組を進めている。</p> <p>拠点回収は、カラスの問題やごみ置き場の設置について問題があることも承知している。その中でふれあい収集については、高齢者のごみを出すのに負担があるということで、3地区のモデル事業を検討しており、全市が網羅できるよう、緑区、中央区、南区といった、区を意識した形で選定したいという考えがある。加えて、戸建てやマンション等の立地状況、収集事務所や清掃工場からの距離等の条件を整理した中で、候補を決定したいと思っている。 (高林環境経済局長)</p>
地区の発言	<p>やはり問題は複合施設の面積が小さくなるということだが、7,500㎡でも市民活動には問題ないという答えでよいか。</p>
市の発言	<p>大規模事業評価の答申が1月10日にあったが、市では公共施設マネジメント推進プランを策定しており、今後施設の維持管理費の負担が大きくなるため、施設や施設の面積を増やさないという方針で動いている。</p> <p>ただ、答申の中で、淵野辺のまちづくりについては非常にいい施設を作っていくと委員からもかなり建設的、積極的な意見をいただいている。7,500㎡と仮置にはしているが、今後民間の意見を聞きながら、7,500㎡で完全に決定するのではなく、施設の機能を考えていく中で、少し拡大してもいいのではないかと意見もいただいている。今後、まちづくりプランや民間の意見を踏まえて事業を進めていく中で、今ご指摘のあった面積も含めて調整を図っていきたい。 (片岡市長公室長)</p>
地区の発言	<p>ごみの話について、モデル地区をこれから3地区設けて始めていくと思うが、いつ頃を目安にモデル地区として開始になるのか。</p>
市の発言	<p>令和7年度の開始で検討を進めている。 (高林環境経済局長)</p>
地区の発言	<p>公室長より説明があったが、複合施設の建物自体は、例えば3階建て等の構想はできているのか。</p>
市の発言	<p>建物は3階を上限で考えている。 (片岡市長公室長)</p>
地区の発言	<p>複合施設における子どもの居場所について、複合化される施設としてあさひ児童館も含まれていると承知している。現状の児童館よりも機能を充実させた、こ</p>

	<p>どもセンターのような施設にすることで、子どもたちにとっても利用しやすくなり、にぎわいが生まれると考えるが、子どものためのスペースについて具体的なプラン等があれば教えていただきたい。</p>
市の発言	<p>一口に子どもと言ってもいろいろな方がいるため、アクティブに体を動かして遊びたい方はアクティブエリアを、本を読んだり、工作をしたり絵を描いたりしたい方は静か遊ぶエリアを、小さいお子様を連れた親子はゆったりと過ごせるベビーエリアといった3つの機能を考えている。 (伊藤こども・若者未来局長)</p>
地区の発言	<p>あさひ児童館は地域の児童館としての性質をもってきた経緯があるが、複合化により広域の児童館としての性質を持つようになると思われる。こどもセンターと機能統合をするような形で、今までの地域の児童館とは違う、こどもセンター以上の施設になるのではないかと考えているが、いかがか。</p> <p>複合化により図書館や青少年学習センター、国際交流ラウンジといった地区内の施設が集まるため、相当な相乗効果があり、地域の児童館のようなスペースでは合わないと考える。</p> <p>民間活力導入について委託調査もしたようだが、具体的に発表できる段階ではないのか。また、複合施設の総合管理となるとそちらも重要な鍵になり、委託等を考えた方が経費は安くなるのではないかと思う。わかる範囲で説明いただきたい。</p>
市の発言	<p>これまでの市民検討会などのご意見で、地域に根差した施設ということで地元の子どもの意識したところはあると思う。その上で複合化のメリットは、様々な方との交流が増えるということが非常に大きいと考えている。</p> <p>児童館ではないが、例えば公民館では青山学院大学の学生で、子どもたちと交流する活動を行っている方がいる。相模原の強みは地域に様々な方がいることであり、地域で見守ろうという意識のある方も多く、大学施設があり大学生もいる。海外の方もいて、日本といい意味でごちゃまぜになろうという認識の方もいる。様々な交流があるということが、子どもたちの育ちにとって非常にプラスになると考えている。様々な体験ができるような場を意識し、地元の小学生を見つち中高生や大学生、地域の方との交流により多様な体験ができる空間にしていきたいと考えている。 (伊藤こども・若者未来局長)</p>
市の発言	<p>サウンディング型市場調査の結果は、令和5年10月末にすでに公表した。民間事業者30社からオファーがあり、いろいろな意見等を聞いている。事業手法としてPFIやDBO等があるが、そういうものに対してそれぞれ関心を示している事業者が多くあり、事業そのものに対する参画意向についても、半数以上の事業者から、条件次第で参画したいというような回答もいただいている。そういった中で民間事業者からの関心が高い事業ではないかと認識をしている。 (松本生涯学習課長)</p>
地区の発言	<p>昭和39年にあさひ児童館ができていたが、この時からあさひ児童館と旭町自治会の自治会館として併合してやってきたという経緯がある。今回、あさひ児童館が複合施設に統合することになり、旭町自治会館は今後どうなると考えているか。</p>
市の発言	<p>あさひ児童館以外にも、市内各所で児童館を自治会の活動の場として使っている地域がある。具体的に決まってはいるが、自治会の活動の場を確保して、地</p>

	<p>域の活動がきちんと維持できるようにしないといけないと思っている。自治会館という名前にはならないと思うが、活動の場の確保はできるようにしていく。</p> <p>(榎本市民局長)</p>
地区の発言	<p>各地区にある児童館を考えてみると、時間的に土日はともかく、平日は午後1時から5時までとなっているが、複合施設になるとどうなるのか。また、指導員については今までのような形ではなく、全く別の角度からの指導員という形でやっていかなければならず、皆様が非常に心配するところだと思っているが、どうなるのか。</p>
市の発言	<p>管理運営については民間活力の導入ということで、参入意向を示している民間事業者もたくさんおり、中には子どもたちのための施設管理も行えるような業者も含まれている。効率的な運営という中で、民間活力を十分生かしながら、児童館の部分に限らず、複合施設でできる様々なスペースの管理も一緒に行えるような、効率的、効果的な管理運営方法を考えていく。</p> <p>(櫻井こども・若者支援課長)</p>
地区の発言	<p>複合施設の中で、青少年学習センターが大きな活動のエリアを使う必要があると考える。昔から子どもを連れて青少年学習センターを利用しているが、現在、60件以上の市内の方が団体登録をしている。駐車場は35台中30台程の利用が常態化する等非常に稼働率がよいと聞いている。施設が複合化するに当たり、諸室の共有や使用可能面積の減少により、本来の目的である青少年の交流活動等の場が引き続き提供できるのか、大変危惧している。</p> <p>青少年学習センターのレイアウトを見ると、40年前から面積も全く変わっていない。共用部分は引かれているが、その数字がそのまま今度の複合施設の中の青少年学習センターに使用されるということは、本当にそれで十分に目的が達成できるのか。青少年に交流と活動の場と言うが、実は未就学児、小学生の使用率が非常に高いと思っている。嬉しいことに、中央区、特に横浜線沿いは人口が増えており、子どもが増加することについて考えていただきたい。人口が減ることばかり考えていたら、将来本来の目的を達成できなくなってしまうため、やはり本当に今の数値、使用面積でいいのかどうかという根拠をいただきたい。</p> <p>加えて、この施設を広く使うことに対して、都市公園法がある中で面積を増やすことが本当に可能なのか、どのぐらい広げられるのか伺いたい。</p>
市の発言	<p>青少年学習センターについて現在もニーズが高いものはきちんと引き継ぎ、また40、50年前と今の子どもたちでは活動内容が変わってきており、例えばダンスをする子どもたちは鏡がある部屋が欲しい、音楽活動に関心を持っている方は音響設備のある部屋が欲しい等、面積にとらわれず、機能面でも配慮し、今の子どもたちのニーズに合うような形でやっていく。子どもたちが何に関心あるかを聞くために子どもへの意見聴取も行っている。</p> <p>また意見聴取の中で、中学生、高校生から勉強する場所がなかなかないという声がある。新しい複合施設全体として、ちょっとした自習スペースにも使っただけ、幅広い世代の子どもの居場所にしたいと思っている。そういった機能やニーズを踏まえて、各部屋の機能や面積を考えているところである。</p> <p>(伊藤こども・若者未来局長)</p>

市の発言	公園の関係については、都市公園法により建ぺい率がかなり厳しい状況になっているが、建物によっては緩和するということが法律上で認められている。また、立体都市公園制度があり、公園の上や下に施設を作ることも認められているので、そういった制度を活用して、複合施設について検討を進めていきたいと考えている。 (片岡市長公室長)
地区の発言	淵野辺駅南口周辺のまちづくりに関して、駅前の駐輪場を今後も継続していくという市の方針があるが、交通安全協会としては、歩行者や自転車、車の通行による交通安全のために、幹線道路上にデッキを設ける等のいい方法があればお答えいただきたい。
市の発言	駅前から鹿沼公園まで距離があり、歩行者や自転車、車、それ以外の交通手段も今後増加するという事で、交通処理の方法については課題があると承知している。第2ステップの中でこういった処理をしていくのか検討を進めていきたいと考えている。 (片岡市長公室長)

市長の感想等	<p>市長就任前の平成31年3月に、この方向性が一度見直されてから4年程、市民検討会で意見を重ね、有志の皆様からご意見を賜った。ようやくビジョンができ、これからのプランの策定に向けて様々なご意見をいただくことができた。</p> <p>子どもからシニア世代のすべての人が集える場所にしていきたいと思っている。例えば国立市にある矢川プラスや大和市のシリウス等、様々な居場所がある。皆様と一緒に見学や視察をして、いいものを取り入れていきたいと思っている。山口会長を先頭に、魂のこもった思いで、30年後、50年後の子どもたちにつなげていくこの施設が、私たちの思いを集約して、みんなで意見の方向をまとめて形になっていけばいいと思っている。</p> <p>児童館や青少年学習センター、それから交通安全協会の皆様をはじめ、自治会や民生児童委員の皆様、様々な立場からご意見を賜った。プランの策定に向けて、今日も非常に貴重な意見を賜ったので、しっかりと目標の年次に向けて供用開始ができるように、私たち職員も市民の皆様としっかり顔の見える関係を築き、そしてまた皆様からご指導賜り後世に誇れる施設を作っていきたいと思う。こんなに駅前に立地がいい施設はなかなかないと思うので、この利を生かした素晴らしいものを皆様と一緒に作っていきたいと思っている。</p> <p>引き続き皆様からご意見、ご指導を賜り、一緒にまちづくりにご協力いただき、ご参加いただきたいということを最後にまたお願いして、本日の御礼の言葉とさせていただきます。 (本村市長)</p>
--------	--